経済同友

4

April 2011
No.733

Contents

■巻頭言
「東日本大震災からの復興に向けて」桜井正光 01

■特集1
長谷川閑史新代表幹事長に聞く 02

■特集2
2011年度事業計画・委員会委員長等一覧 05

■第2次緊急アピール
東日本大震災からの復興に向けて 09

■Close-up提言
社会的責任経営委員会　提言
対談　グローバル時代のCSR 13
水越 さくえ 委員長・渋澤 健 部会長

■Doyukai Report
アフリカ委員会　ミッション報告 17
関山 護 委員長インタビュー
企業経営委員会 19
パネル・ディスカッション

■Seminar
第1167回 会員セミナー 21
「エジプト反政府デモのインプリケーション」
畑中 美樹 氏（国際開発センター エネルギー・環境室 研究顧問）
第103回 TCERセミナー 22
「環太平洋連携（TPP）協定と日本の経済外交」
木村 福成 氏（慶應義塾大学経済学部教授、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）チーフエコノミスト）

■Column
リレートーク　矢原 史朗 12
「ソーシャル・ネットワークが日本を変える」
Global View　伊藤 清彦 23
「ダボス会議を活用して、世界の潮流づくりに参加し、日本のプレゼンス向上を」
コペンハーゲン通信 24
「デンマークから東日本大震災を見て1カ月」
私の思い出写真館　清田 瞭 26
「心の中の故郷」

新入会員紹介 25

今月の表紙：世界の文様シリーズ

【日本・友禅着物の四季文様】

春の梅と桜、秋の大輪菊が雪輪（ゆきわ）（雪の結晶の文様）の内外に納められ、華やかさを醸し出す見事な造形です。

巻頭言

代表幹事
桜井 正光
リコー
取締役会長執行役員

「 東日本大震災からの復興に向けて 」

東日本大震災の犠牲になられた皆さまに対し、深く哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

構造改革が進まぬまま、数多くの課題に直面しているわが国に、地震、津波、そして原子力発電所事故という複合的災害が襲いかかり、われわれ日本国民にさらなる試練を突き付けました。

大震災に伴う甚大な被害を前に、われわれ経済活動の中核を担う企業は、その持てる資源を最大限有効に活かし、過酷な状況に置かれている被災者、被災地への支援に主体的に取り組むとともに、被災した事業の早期復旧に向けて全力を尽くさなければなりません。そして、被災された皆さまの日常生活を取り戻し、日本経済の活力を復活させ、国内外に「日本は大丈夫だ」と力強いメッセージを発信することが大事です。

一方、日本は少子・高齢化による人口減少、グローバル化といった大きな環境変化にさらされ、また先進国の中で圧倒的に多い長期債務残高を抱えています。これらは、戦後の日本を支えてきた諸制度を大きく揺るがす環境変化であり、制度および構造改革による迅速な対応が迫られています。その必要性は、震災によって何も変わっていませんし、震災があったからといって決して待ってはくれません。

従って今後の震災からの「復興」においては、単に古きを残した震災前の状態に「復旧」するのではなく、われわれの掲げた「日本創生」という中長期ビジョンの下に、こうした構造的課題の解決も図りながら、新しい「東北」を創生していくことが求められています。つまり、目指すべき地域主権型道州制の先行モデルとして、地域が主体となって、地域の持つ強みを強化、活用し、世界の主要国に対して十分な競争力と生活の豊かさを持った「東北」を新しく創造していくことが必要です。こうした先進的な復興プランを財政健全化の道筋の下に描くことが、人々に勇気と希望を与えることになるでしょう。

今回の震災を受けた日本人の行動は、世界からも称賛されました。日本は確実に、世界から尊敬され期待されている国です。そして、大きな成長のポテンシャルを持った国です。経済同友会に結集するわれわれも、今こそ経済同友会の「設立趣意書」の高い志と熱い思いに立ち返り、戦後の焼け野原からの日本の復興と、自らの企業の再生を重ね合わせて命を懸けた先輩諸氏の大志を思い起こし、「日本創生」に向けて自らの役割と責任を果たしていかなければならないのです。

……旧き衣を脱ぎ捨て、現在の経済的、道徳的、思想的頽廃、混乱の暴風を乗切って全く新たなる天地を開拓しなければならないのである。これは並々ならぬ独創と理性と意力と愛国の熱情とを要する大事業である。われわれは経済人として新生日本の構築に全力を捧げたい。…（中略）…今こそ同志相引いて互に鞭ち脳漿をしぼって我が国経済の再建に総力を傾注すべき……　（経済同友会設立趣意書より）